令和5年度 No.4

駒岡小学校だより

7月号

関わり合いや学び合いの経験を通した成長

児童支援専任　西村 泰弘

プールからは、子どもたちの声が響き渡り、夏の訪れを感じる季節となりました。

今年度は、コロナ禍前に戻し、1年生から6年生、個別支援学級まで、学年や個別級単位で水泳学習を行っています。数年ぶりの水泳学習ということもあり、心待ちにしていた子どもたちが多くいたように感じます。子どもたちの中には、大きなプールで泳ぐことに不安を抱いたり、水の冷たさにびっくりしたりと、新たな経験を通して、日々、成長する姿が見られます。我々、職員一同、子どもたちの安全を第一に考えながら、水泳の指導に当たっています。

文部科学省は、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書である「生徒指導提要」を 12 年ぶりに改訂しました。

本書の中で、「教育課程の内外を問わず、学校が提供する全ての教育活動の中で児童生徒の人格が尊重され、個性の発見とよさや可能性の伸長を児童生徒自らが図りながら、多様な社会的資質・能力を獲得し、自らの資質・能力を適切に行使して自己実現を果たすべく、自己の幸福と社会の発展を児童生徒自らが追求することを支える」ことを生徒指導の目的としています。

この目的を達成するためには、児童生徒一人ひとりが「自己指導能力」を身に付けることが重要です。自己指導能力とは、児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をするべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力を意味します。

子どもたちは、学校生活における多様な他者との関わり合いや学び合いの経験を通して、日々、成長しています。ときには、生活の中で、自分の思いどおりにならないことや、友達と喧嘩をしてしまうことなど、子どもにとっても大きな課題に直面することもあります。そんなときに、我々大人が、子どもに寄り添うことが大事だと、これまでの経験を通して感じています。子どもに寄り添うこととはどういうことなのか、私自身、教師として大事にしていることは、必ず双方の子どもの思いや考えに耳を傾けることです。そして、「相手はどう思っていたのか」、「自分はどうすべきだったのか」など、互いの思いや考えを理解する中で、他者を思いやる気持ちを育み、「自己指導能力」を身に付けてほしいと願っています。そのためにも、ご家庭や地域のみなさまとともに、子どもたちを育てていきたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いします。

（参考文献）

「・初等中等教育局児童生徒課 “生徒指導提要（改訂版）” 文部科学省」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm（参照 2023-6-23）